



2022年9月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2022年8月4日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社FOOD & LIFE COMPANIES
 コード番号 3563 URL <https://www.food-and-life.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水留 浩一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 (氏名) 小河 博嗣 (TEL) 06-6368-1001
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 2022年9月期第3四半期の連結業績 (2021年10月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第3四半期	211,937	18.6	12,372	△32.2	10,173	△41.2	5,252	△50.9	5,247	△51.3	7,079	△38.5
2021年9月期第3四半期	178,751	18.6	18,245	111.7	17,293	141.1	10,702	152.3	10,770	152.9	11,504	162.7
	基本的1株当たり 四半期利益		希薄化後1株当たり 四半期利益									
	円 銭		円 銭									
2022年9月期第3四半期	45.33		45.06									
2021年9月期第3四半期	92.80		92.36									

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2022年9月期第3四半期	331,493	66,390	66,381	19.8
2021年9月期	296,001	63,573	63,569	21.3

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	0.00	—	22.50	22.50
2022年9月期	—	0.00	—		
2022年9月期(予想)				22.50	22.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年9月期の連結業績予想 (2021年10月1日～2022年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
通期	280,000	16.3	8,500	△62.9	6,000	△72.2	3,000	△77.1	3,000	△77.2	円 銭 25.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 2社 (社名) 深セン寿司郎餐飲有限公司、成都寿司郎餐飲有限公司 除外 一社 (社名) 一

- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無

- (3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2022年9月期3Q	116,069,184株	2021年9月期	116,069,184株
2022年9月期3Q	394,448株	2021年9月期	248株
2022年9月期3Q	115,749,718株	2021年9月期3Q	116,055,714株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その実現を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	5
(2) 要約四半期連結損益計算書	6
(3) 要約四半期連結包括利益計算書	7
(4) 要約四半期連結持分変動計算書	8
(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(セグメント情報)	10
(販売費及び一般管理費)	12
(1株当たり利益)	12
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に係るまん延防止等重点措置が2022年3月に終了し、経済活動の制限が徐々に緩和しつつあるものの、ロシアによるウクライナ侵攻に伴い資源価格が高騰しているのみならず、円安が急進しており、様々な物価が高騰し、先行き不透明な状況が続いております。

外食業界におきましても、同様にロシアによるウクライナ侵攻に伴う資源価格の高騰や円安、様々な物価の高騰等により引き続き厳しい状況になっております。

このような状況の中、当社グループでは、「変えよう、毎日の美味しさを。広めよう、世界に喜びを。」をVISIONとして、日々の食を美味しくすることで、お客様の生活や人生までゆたかにしたいという願いに向けて、商品開発、店内調理、安心・安全の取り組み及びサービスの向上に取り組んでまいりました。

業態別店舗数は以下のとおりであります。

[当社グループ業態別店舗数]

業態名	前連結会計年度末	出店実績	閉店実績	当第3四半期連結会計期間末
国内：スシローブランド (テイクアウト専門店)	610(15)	39(13)	4(2)	645(26)
国内：杉玉ブランド(FC)	39(6)	22(8)	1	60(14)
国内：京樽ブランド	154(—)	5	5	154(—)
国内：回転寿司みさき・ 三崎丸ブランド	106(—)	—	4	102(—)
国内：その他ブランド	29(—)	3	7	25(—)
国内合計	938(21)	69(21)	21(2)	986(40)
海外：スシローブランド (テイクアウト専門店)	59(1)	18(1)	—	77(2)
海外：その他ブランド	2(—)	—	—	2(—)
海外合計	61(1)	18(1)	—	79(2)
国内外合計	999(22)	87(22)	21(2)	1,065(42)

() 内は内数でテイクアウト専門店・FCの店舗数

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上収益211,937百万円（前年同期比18.6%増）、営業利益12,372百万円（前年同期比32.2%減）、税引前四半期利益10,173百万円（前年同期比41.2%減）、親会社の所有者に帰属する四半期利益5,247百万円（前年同期比51.3%減）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

(国内スシロー事業)

まん延防止等重点措置が2022年3月に終了し、店内飲食は徐々に回復に向かっております。国内スシローでは、業績回復に向けた取り組みとして、「スシロー大創業祭」を開催しました。その第一弾は「輝け、日本のうまい魚。」をテーマにダブル生サーモン皿の販売等を、同第二弾は「輝け、日本のすごい技。」をテーマに店内蒸しふわとろうなぎ皿の販売等を、同第三弾は「輝け、子ども達の笑顔。」をテーマに小学生以下の子どもを対象に、黄皿3枚相当額を無料で提供いたしました。

なお、国内スシロー事業におきましては、2022年6月に消費者庁より景品表示法に関する措置命令を受け、お客様の信頼を損ねるという事態を招きました。今後は再発防止策に取り組み、お客様からの信頼を回復できるよう尽力して参ります。

以上の結果、国内スシロー事業の売上収益は167,822百万円（前年同期比4.2%増）、セグメント利益は11,559百万円（前年同期比40.1%減）となりました。

(海外スシロー事業)

新型コロナによる飲食店への営業規制が各国・地域において続いておりましたが、次第に緩和され、回復に向かっております。そのような中、アフターコロナを見据えて、中国大陸においては、2021年9月に初出店した広州で6号店をオープンし、さらに深セン、成都においても出店を計画しております。その他の地域では、台湾+2店舗、香港+5店舗、シンガポール+1店舗、タイ+5店舗と、新規出店を継続しました。

また、来店客数の維持・拡大に向けて、とらふぐフェア（広州）、スシロー夏祭り（韓国）、サーモンフェア（台湾）、おいしいもの祭（香港）、北海道フェア（シンガポール）、全国うまいもの祭り（タイ）等、魅力的な販促・マーケティング施策を各地域で継続的に実施いたしました。

以上の結果、海外スシロー事業の売上収益は25,398百万円（前年同期比109.4%増）、セグメント利益は763百万円（前年同期セグメント損失763百万円）となりました。

(京樽事業)

コロナ収束後に向けて、合併後のシナジー創出を目的としたテイクアウト店舗のスシローとのWブランド化、回転すし業態の回転寿司みさきへのリブランディング等、新たな施策に取り組んでおります。また、テイクアウト事業向け商品の製造を担う「京樽 セントラルキッチン」の生産能力をアップし、生産性の向上と同時に商品品質の向上に取り組んでおります。これらに加え、本社組織の統合、その後の業務の統合をすすめるなど、シナジー創出に向けた施策に継続的に取り組んでおります。

以上の結果、京樽事業の売上収益は16,067百万円、セグメント損失は1,489百万円となりました。

なお、当事業につきましては、株式会社京樽の連結子会社化に伴い前第3四半期連結会計期間より連結の範囲に含めたことから、前年同期との比較が困難であるため、前年同期比を記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び資本の状況

(資産)

総資産の残高は、前連結会計年度末に比べ35,492百万円増加し、331,493百万円となりました。

流動資産の残高は、前連結会計年度末に比べ21,284百万円増加し、70,126百万円となりました。これは主に、資金の借入等により現金及び現金同等物が26,068百万円増加したこと等によるものであります。

非流動資産の残高は、前連結会計年度末に比べ14,208百万円増加し、261,367百万円となりました。これは主に、新店出店等により有形固定資産が13,306百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ32,675百万円増加し、265,103百万円となりました。

流動負債の残高は、前連結会計年度末に比べ6,110百万円減少し、53,750百万円となりました。これは主に、リース負債が2,106百万円増加した一方で、未払法人所得税が6,761百万円、引当金が1,922百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

非流動負債の残高は、前連結会計年度末に比べ38,785百万円増加し、211,353百万円となりました。これは主に、社債及び借入金が31,017百万円増加したこと等によるものであります。

(資本)

資本合計は、前連結会計年度末に比べ2,817百万円増加し、66,390百万円となりました。これは主に、配当金の支払により2,612百万円、自己株式の取得により2,020百万円それぞれ減少した一方で、親会社の所有者に帰属する四半期利益の計上により5,247百万円増加し、為替換算調整勘定が1,828百万円増加したこと等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ26,068百万円増加し、55,435百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、23,783百万円（前年同期比6.2%増）となりました。

これは主に、税引前四半期利益10,173百万円、減価償却費及び償却費16,802百万円の計上、営業債権及びその他の債権の減少が5,990百万円、営業債務及びその他の債務の増加が1,246百万円あった一方で、法人所得税の支払額が11,222百万円、賞与引当金の減少が1,873百万円あったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、14,227百万円（前年同期比6.0%増）となりました。

これは主に、新規出店等に伴う有形固定資産の取得による支出が11,473百万円あったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は、15,623百万円（前年同期比136.9%増）となりました。

これは主に、リース負債の返済による支出が10,681百万円、長期借入金の返済による支出が3,007百万円、配当金の支払額が2,609百万円、自己株式の取得による支出が2,000百万円あった一方で、長期借入れによる収入が34,000百万円あったこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年9月期の連結業績予想につきましては、国内では2022年3月においてまん延防止等重点措置が解除されたものの、コロナ禍の生活様式や消費行動が大きく変化したことで国内各事業会社における来店客数の回復が想定を下回ったことに加え、6月9日付消費者庁より景品表示法に関する措置命令を受け、お客様の信頼を損ねるという事態を招き、主要事業である国内スシロー事業の来店客数が想定よりも大きく下回り、その結果、売上収益が予想を下回りました。また、各種コスト上昇、その他費用における減損損失3,289百万円に加えて金融費用における持分法による投資損失2,011百万円等を計上致しました。

当第4四半期会計期間以降において、海外スシロー事業についてはコロナ禍でも想定通りの推移を見込んでいたものの、国内スシロー事業は、お客様からの信頼回復までには至らず厳しい状況が継続すること、また食材原価やエネルギーコストの上昇などが継続するものと想定される事に加えて、新型コロナウイルス感染拡大についてもまだまだ予断を許さない状況でもあり、通期の連結業績予想を修正致しました。詳細につきましては、本日（2022年8月4日）に公表致しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、連結業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、景気動向等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	29,367	55,435
営業債権及びその他の債権	15,004	9,616
棚卸資産	2,146	2,789
その他の金融資産	442	444
その他の流動資産	1,883	1,841
流動資産合計	48,841	70,126
非流動資産		
有形固定資産	146,554	159,859
のれん	30,541	30,541
無形資産	54,634	55,887
持分法で会計処理されている投資	1,855	55
敷金及び保証金	12,182	13,171
その他の金融資産	487	487
繰延税金資産	411	411
その他の非流動資産	496	956
非流動資産合計	247,159	261,367
資産合計	296,001	331,493
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	26,676	28,348
借入金	4,009	4,009
未払法人所得税	6,831	69
リース負債	13,115	15,221
その他の金融負債	1,419	1,103
引当金	3,377	1,456
その他の流動負債	4,432	3,543
流動負債合計	59,860	53,750
非流動負債		
営業債務及びその他の債務	46	23
社債及び借入金	58,896	89,913
リース負債	96,094	103,379
その他の金融負債	86	99
引当金	3,233	3,645
繰延税金負債	14,175	14,289
その他の非流動負債	38	6
非流動負債合計	172,568	211,353
負債合計	232,428	265,103
資本		
資本金	100	100
資本剰余金	15,755	15,692
利益剰余金	46,584	49,220
自己株式	△0	△1,894
その他の資本の構成要素	1,130	3,263
親会社の所有者に帰属する持分合計	63,569	66,381
非支配持分	4	9
資本合計	63,573	66,390
負債及び資本合計	296,001	331,493

(2) 要約四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
売上収益	178,751	211,937
売上原価	△81,401	△98,372
売上総利益	97,350	113,566
販売費及び一般管理費	△82,479	△101,673
その他の収益	4,710	4,142
その他の費用	△1,336	△3,663
営業利益	18,245	12,372
金融収益	120	513
金融費用	△657	△702
持分法による投資損益 (△は損失)	△415	△2,011
税引前四半期利益	17,293	10,173
法人所得税費用	△6,591	△4,922
四半期利益	10,702	5,252
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	10,770	5,247
非支配持分	△68	4
四半期利益	10,702	5,252
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり当四半期利益(円)	92.80	45.33
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	92.36	45.06

(3) 要約四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
四半期利益	10,702	5,252
その他の包括利益		
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	805	1,828
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値に係る純変動の有効部分	△3	—
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	802	1,828
税引後その他の包括利益	802	1,828
四半期包括利益	11,504	7,079
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	11,572	7,075
非支配持分	△68	4
四半期包括利益	11,504	7,079

(4) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)

(単位: 百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の構 成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2020年10月1日時点の残高	100	15,747	35,156	△0	△95	50,908	13	50,920
四半期利益			10,770			10,770	△68	10,702
その他の包括利益					802	802	△0	802
四半期包括利益合計	—	—	10,770	—	802	11,572	△68	11,504
減資	△7	7				—		—
新株予約権の行使	7	7			△13	0		0
新株予約権の失効			3		△3	—		—
株式に基づく報酬取引					245	245		245
配当金			△1,741			△1,741		△1,741
連結子会社の増資による持分の増減						—	56	56
連結子会社株式の取得による持分の増減		△6				△6	6	△0
連結範囲の変動						—	2	2
所有者との取引額合計	—	8	△1,738	—	229	△1,502	64	△1,438
2021年6月30日時点の残高	100	15,755	44,188	△0	936	60,978	8	60,987

当第3四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)

(単位: 百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の構 成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2021年10月1日時点の残高	100	15,755	46,584	△0	1,130	63,569	4	63,573
四半期利益			5,247			5,247	4	5,252
その他の包括利益					1,828	1,828	0	1,828
四半期包括利益合計	—	—	5,247	—	1,828	7,075	4	7,079
自己株式の処分		△42		106	△13	50		50
自己株式の取得		△20		△2,000		△2,020		△2,020
株式に基づく報酬取引					319	319		319
配当金			△2,612			△2,612		△2,612
所有者との取引額合計	—	△62	△2,612	△1,894	305	△4,263	—	△4,263
2022年6月30日時点の残高	100	15,692	49,220	△1,894	3,263	66,381	9	66,390

(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	17,293	10,173
減価償却費及び償却費	13,418	16,802
減損損失	1,240	3,289
金融収益	△78	△229
金融費用	647	702
賞与引当金の増減額 (△は減少)	835	△1,873
敷金及び保証金の家賃相殺額	207	196
持分法による投資損益 (△は益)	415	2,011
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△3,716	5,990
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△132	△605
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	△139	1,246
その他	△1,767	△2,122
小計	28,222	35,582
利息及び配当金の受取額	4	13
利息の支払額	△549	△590
法人所得税の支払額	△5,278	△11,222
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,398	23,783
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△9,874	△11,473
有形固定資産の売却による収入	252	0
無形資産の取得による支出	△238	△1,664
定期預金の預入による支出	△462	—
定期預金の払戻による収入	295	—
敷金及び保証金の差し入れによる支出	△1,116	△1,034
投資有価証券の取得による支出	△52	—
子会社の取得による支出	△2,289	—
その他	61	△57
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,423	△14,227
財務活動によるキャッシュ・フロー		
社債の発行による収入	19,918	—
短期借入金の純増減額 (△は減少)	12	—
長期借入れによる収入	35,000	34,000
長期借入金の返済による支出	△37,743	△3,007
リース負債の返済による支出	△8,822	△10,681
支払手数料の支払による支出	△15	△3
自己株式の取得による支出	—	△2,000
新株予約権の行使による収入	—	33
非支配持分からの払込による収入	14	—
配当金の支払額	△1,739	△2,609
その他	△30	△110
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,595	15,623
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	15,571	25,178
現金及び現金同等物の期首残高	12,665	29,367
現金及び現金同等物に係る換算差額	170	889
現金及び現金同等物の四半期末残高	28,406	55,435

(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書)

前第3四半期連結累計期間において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示しておりました「賞与引当金の増減額(△は減少)」は、金額の重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より、区分掲記することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書の組替えを行っております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に表示していた△932百万円は、「賞与引当金の増減額(△は減少)」835百万円、および「その他」△1,767百万円として組み替えております。

(セグメント情報)

①報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、主に事業別のセグメントから構成されております。

当社グループは、前連結会計年度までは、すし事業の単一セグメントのみとしていましたが、第1四半期連結会計期間より「国内スシロー事業」、「海外スシロー事業」、「京樽事業」及び「その他事業」に変更することに致しました。

これは事業展開、経営資源の再配分及び経営管理体制の実態の観点から事業セグメントを検討した結果、「FOOD & LIFE COMPANIES 2022年-2024年 中期経営計画」における重点事業として、上記のとおり報告セグメントへの変更に至ったものであります。

各報告セグメントに含まれる主要ブランドは以下のとおりであります。

国内スシロー事業：国内で展開する「スシロー」及びテイクアウト専門店

海外スシロー事業：海外で展開する「スシロー」及びテイクアウト専門店

京樽事業：株式会社京樽が運営する全ブランド(主要ブランド「京樽」・「回転寿司みさき」・「海鮮三崎港」)

その他事業：株式会社FOOD & LIFE INNOVATIONS が運営する全ブランド(主要ブランド「杉玉」)

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを開示しております。

また、京樽事業は、2021年4月1日より当社グループの連結子会社となった株式会社京樽及びその子会社2社に係る事業セグメントであり、前第3四半期連結累計期間における実績数値は前第3四半期連結会計期間において発生したものであります。

②報告セグメント売上収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる売上収益及び業績は以下のとおりです。

前第3四半期連結累計期間（自 2020年10月1日 至 2021年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				合計	調整額合計 (注) 2	連結合計
	国内ス ロー事業	海外ス ロー事業	京樽事業	その他事業			
売上収益							
外部収益	160,937	12,129	4,542	1,143	178,751	—	178,751
セグメント間収益	109	—	—	—	109	△109	—
計	161,046	12,129	4,542	1,143	178,861	△109	178,751
セグメント利益又は 損失(△は損失) (注) 1	19,287	△763	275	△916	17,884	361	18,245
その他の項目							
減価償却費及び償 却費	10,719	1,819	423	231	13,193	225	13,418
減損損失	269	405	—	565	1,240	—	1,240

(注) 1. セグメント利益又は損失は要約四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額361百万円には、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社損益が含まれております。

当第3四半期連結累計期間（自 2021年10月1日 至 2022年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				合計	調整額合計 (注) 2	連結合計
	国内ス ロー事業	海外ス ロー事業	京樽事業	その他事業			
売上収益							
外部収益	167,754	25,398	15,844	2,941	211,937	—	211,937
セグメント間収益	68	—	222	—	290	△290	—
計	167,822	25,398	16,067	2,941	212,227	△290	211,937
セグメント利益又は 損失(△は損失) (注) 1	11,559	763	△1,489	△406	10,428	1,945	12,372
その他の項目							
減価償却費及び償 却費	11,870	3,097	1,240	304	16,510	292	16,802
減損損失	1,705	542	878	164	3,289	—	3,289

(注) 1. セグメント利益又は損失は要約四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額1,945百万円には、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社損益が含まれております。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費の内訳は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
従業員給付費用	49,401	57,400
減価償却費及び償却費	13,379	16,728
水道光熱費	3,512	4,881
支払手数料	2,511	3,669
その他	13,677	18,995
合計	82,479	101,673

(1株当たり利益)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
親会社の普通株主に帰属する四半期利益(百万円)	10,770	5,247
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する普通株主に係る四半期利益(百万円)	10,770	5,247
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する普通株主に係る四半期利益(百万円)	10,770	5,247
基本的期中平均普通株式数(株)	116,055,714	115,749,718
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に用いられた普通株式増加数(株)	555,612	705,284
希薄化後の期中平均普通株式数(株)	116,611,326	116,455,002
基本的1株当たり四半期利益(円)	92.80	45.33
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	92.36	45.06
希薄化効果を有しないため、希薄化後1株当たり四半期利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権1種類 (普通株式15千株)	新株予約権2種類 (普通株式95千株)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。